

●京の七夕への協力 8月7日の京極商店街への納入で無事に完了。6月26日の吉祥院商店街から始まった10商店街への納品が済みました。京都商工会議所の七夕取組み商店街は18でした。里山の会に笹竹の提供はそのうちの55%の10商店街へとどけることになりました。納品時間は午前9時までや12時正午、15時や17時ごろといった指定があつて、苦勞しました。そして昨年と同様に笹の部分と竹の部分の分け方がされておらず、2.5mの笹を要求されていてそれほど大きく長い笹はほとんど手に入れることが出来ませんが、注文されているのです。とにかく一番高いところからの長さで持参すると特別異論は言われませんでした。

納品時間に合わせて採取し、できるだけ元気でしおれていないものを提供しようと時間ギリギリに伐採しました。暑さも昨年ほど厳しくはなくうまく元気な笹の状態運びこむことに成功しました。それでも事務局会議と重なって切り出しや運びを行わなくてはならない場面も多々ありました。一か月半に及ぶ取組みでした。錦商店街の注文は太さと長さが指定されたうえに、先端部分の笹を付けたものでなっていました。そして笹はついているものと同じ大きさのものが指定されているので、随分と苦勞をしました。伐採には午前7時に集合してとか暑さ真っ盛りの11時とかあるいはやぶ蚊が動き出す夕暮れとかだったので作業をしていただいた皆さんには随分とご苦勞をおかけしました。暑い中本当にご苦勞様でした。

●トヨタ環境活動助成プログラム 2019年度申請を行ったところ第1次審査を通過したとの連絡が届く。概要は「国の天然記念物であるイタセンパラが淀川水系で最後まで自然に生息していた木津川でも近年の河川低下などにより河川敷の環境変化が進んでいる。ここ数年、本会が関係機関とともに取り組んできている「竹蛇籠」や「聖牛」プロジェクトを活かして木津川の環境改善を図り、周辺の自治体、学校、住民などに学習会などを通じて呼びかけを行い、みんなと一緒にイタセンパラの復活を目指す」とするものです。

活動の背景や必要性は、全国的にも珍しい砂河川である木津川は、イタセンパラが淀川水系では最後（2007年）まで自然に生息していた川である。木津川では砂利採取や上流でのダム建設による河川周辺の環境悪化がイタセンパラ絶滅につながったと考える。この間本会が主催する魚捕りのイベントには毎回多くの参加が見られる。本会では再来年に結成25周年を迎えるにあたり、ぜひとも地域住民と一緒に、最後の生息地である木津川にイタセンパラを呼び戻したいと考える。一方本会では木津川に生育する真竹を活用して、魚の棲み処を作るために竹竹蛇籠を製作、設置することで成果を上げてきた。この技術を生かし、継続した中聖牛の設置を京都大学防災研究所と協働して昨年度までに6基設置し、今年度、来年度も各3基の設置を予定している。

活動の目的は、山城地域の中心を流れる木津川は、古来より奈良の都、京都の都の交通の要所として大きな役割を果たしてきた。この木津川は都市河川の中に位置しながら素晴らしい自然を残す数少ない貴重な川である。この豊かな川に天然記念物のイタセンパラの復活を目指す運動を進めることで、川と疎遠になりつつある地域住民の関心と呼び戻し、川や自然の保全についての関心を高め、地球温暖化防止やゴミ汚染等、現代の川問題や川環境ひいては自然と暮らしを見つめなおすきっかけとしていきたい。川や魚を通して、自然を大切に考える人を育てる社会貢献活動としていきたい。

具体的な活動をどのように実施すのかでは、流域住民に働きかける 地域説明会の実施。生育池の周辺と進入路の整備、木津川出張所への働きかけと、協力要請。一般新聞や自治体広報誌の利活用での広報活動。スタッフの研修や学習会の開催。展示発表会への積極的な参加、木津川周辺での生き物調査。竹蛇籠製作と中聖牛の製作設置を行なうなどと計画している。

以上の計画を申請内容としました。これが二次審査をパスとなれば 2020 年正月から実施となります。これまで数回の申請を繰り返しましたが、第 1 次を通過したことは初めてです。トヨタの申請をクリアしたことは相当意義あることで、第 2 次で落選してもこの提案を高く評価されたことには間違いのないことであります。私たち里山の会は何としても実現への一步を踏み出しましょう。皆さんのご協力をお願いします。

●**京都大学と摂南大学生玉水浜で大溜まりへの通路完成** 12.13 日 8 月のこの日は特に暑く熱中症で死亡する人があちこちで発生していました。木津川の河川敷で風の通らない背の高さの 2 倍もある葦原の中、クズの蔓が巻いたものを切り進み通路の確保に終日頑張っていました。おかげさまで下流と上流にある大きなワンド(水たまり)までの通路が開通させられました。一昨年同じような藪こぎを 400m ほど行ったときの大変さを通じて、暑さが頂点に達している中でのきつい作業をよく行っていたいただいたものと思います。学生諸君だからやりとげられたものです。私たち里山の会だったら 3~4 日はかかる作業であるはずです。本当に頑張っていました。感謝します。

●**18 日の京都府子どもの水辺** 51 人の参加希望者で開催へ。台風 10 号はスピードが遅く半径 800 km は日本列島を覆う暴風雨を持つ大型なので、報道では 1200 mm 降雨が予想されると報道されています。16 日の夕方には日本を縦断する予想です。今週の最初から注目してきたのですが、15・16 と二日間が影響を受けることになるので、木津川上流の大雨が予想されるとき 2 日間では増水と濁り水は戻ることはありません、カヌー体験と魚とりはとても危険で実行することは無理と予想しています。もちろんぎりぎりまで待って、予定通りのプログラムの実行を目指すつもりです。しかしその可能性はかなり厳しいと思われます。自然は人間の思い通りにはいかないものです。このことも若いうちから経験していただくことも必要だと思います。

●**第 2 回理事会**が 8 月 25 日(日)13:00~15:00 時予定しています。主要な議題は、**①25 周年記念事業** **②第 3 次中聖牛設置****③活動プランの 3 か月目の決定** **④助成金申請****⑤余剰金の積立金の設立** **⑥地域説明会**について審議を予定しています。理事諸氏は万難を排してご出席をお願いします。里山の会は 1996 年 5 月 17 日に任意の会として結成総会を開催しています。そして里山の植物の観察調査を行い木津川での希少植物の発見を数多く行ってきました。木津川堤防に 917 種の植物を見つけ、その標本化に成功し保存し書類にまとめてきました。特筆すべきことは絶滅していたとされていたレンリソウを発見しよみがえらせたことでしょう。そしてカスミサンショウウオの発見とその保存、オオムラサキの生育調査を 20 年来行っていることなど数々の成果を収めてきました。7 月には産業界のトップ企業のトヨタの環境活動助成金申請の第 1 次審査に合格したこと、そして 22 日には国交省近畿整備局長から功労者団体として表彰されたことなど大きく高く評価を得る事が出来ています。本会として 2020 年には 25 年を歩んだことになります。それを記念する取り組みについて協議します。誠に有意義な理事会になります。これまでにない意義ある会議となります。欠席なきようお願いいたします。